

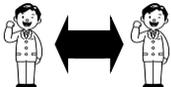
令和6年度千葉県サービス管理責任者
児童発達支援管理責任者更新研修

スーパービジョンの進め方①

サービス提供職員への個別スーパービジョン

(特非) 千葉県精神障害者自立支援事業協会

スーパービジョンの種類

個人		<p>○ケースの掘り下げがしやすい ×専門的なSVの確保が難しい</p>
グループ		<p>○グループでの共感が生まれる ×個人的感情が出しにくい</p>
ライブ		<p>○具体的な助言が得られる ×SVの力量が問われる</p>
ピア		<p>○親しみやすく入りやすい ×単なる友人関係になりやすい</p>
セルフ		<p>○すぐに取り組み振り返り効果が高い ×継続していく動機付けが必要</p>

代表的スーパービジョンの特徴

① 個人スーパービジョン

スーパーバイザーとワーカーが1対1で契約をして実施
倫理、知識、技術まで深く、細かく指導が可能だが、機
会は稀となる。

② グループスーパービジョン

スーパーバイザーと複数のワーカーが契約をして実施
複数の声や評価を聴けて効果あるが、深くは入れない

③ ピアスーパービジョン

ワーカー同士で、ルールを設定して実施
時間を見ながら気軽にできるが、客観性の担保が課題

④ その他（メンタリングなど）

傾聴を使ったSVの技術

支援技術としての傾聴 (スーパービジョンの技術)

傾聴とは利用者や職員等の
関係を形成する技術ではなかったの？



傾聴がスーパービジョンなの？

5

傾聴を基本としたスーパービジョン



困っている内容を傾聴し、
話している本人が自分で困
りごとを解決していくこと
を支援する技術

答えはその人の中にある

6

傾聴の技術

<Step 1 >

相手の傍らで、心を開き、意識を集中する

技術：相手のそばで意識を集中し、話を聞く姿勢が支援である

- × 沈黙に耐えきれず、意味のない話をしてしまう
(何故ダメなの?)

7

<Step 2 > 言葉を聞くのではなく、相手の気持ちに近づく

技術：相手の気持ちに近づく技術「同じ言葉を返す」

- × 自分の経験を話してしまう
(何故、ダメなの?)
- × 相手の話を客観的に判断する
(何故、ダメなの?)

8

<Step 3 > 話の内容を短くまとめて相手に返す

技術：話の内容から重要なキーワードを見つける

×話の内容を解釈して、自分の経験に引きつけて自分の考えを話してしまう

9

<Step 4 > 相手の今後の方向性に対する考えを引き出す

技術：開かれた質問でその時の判断の根拠と行動の吟味

× 吟味をする主体はあくまでも相談者、支援者が吟味してはダメ

10

<Step 5> 相手の考えを認め、具体的な行動を引き出す

技術：判断の根拠と行動を吟味することで、どうすれば良いのかという回答と次の行動を引き出し、支援する

× 行動の主体は相談者、次の行動を受け入れ、励ます

11

実際に模擬演技を見て確認をしてみましょう。

(事例の概要は資料 1 1 5 ページをご覧ください)

12

傾聴を使った5つのステップ

- <Step 1> 相手の傍らで、心を開き、意識を集中する
- <Step 2> 言葉を聞くのではなく、相手の気持ちに近づく
- <Step 3> 話の内容を短くまとめて相手に返す
- <Step 4> 相手の今後の方向性に対する考えを引き出す
- <Step 5> 相手の考えを認め、具体的な行動を引き出す

スーパービジョンの機能

1 支持的機能

スーパーバイザーとワーカーの信頼関係を築き、受容的關係の中で、知識や技術を学べるようワーカーを支えていく

2 教育的機能

ソーシャルワークの価値倫理、専門知識や技術を身につけさせて、業務の遂行を可能なレベルに訓練していく

個別的自己覚知や専門職としての自己覚知を促すことも目的となる

3 管理的機能

当該施設の目的・機能を果たすべく、ワーカーに一定レベルの支援を求めること

教育的側面や燃え尽き防止など人事管理の側面もある

演習では実際にロールプレイを行います。

模擬演技を見て頂いていかがでしたでしょうか？

スーパーバイザーに気づきを与えることが出来ましたか？

演習では、先ほどの動画とは**違った事例**を元に実際にロールプレイを行います。

これまで確認を行った「傾聴を使った5つのステップ」を再度確認して頂き、演習に臨んでいただければと思います。

演習時 スーパービジョン 振り返りシート

※ 対面での演習の時に使います

スーパービジョンロールプレイ（チェック表）

大項目	チェックポイント	(課題が残った)					(上手くいった)				
面談の環境設定	面談に適した場所の配慮は適切か	1	2	3	4	5					
	面談の際の向きの配慮は適切か	1	2	3	4	5					
	バイザーとの距離の配慮は適切か	1	2	3	4	5					
ステップ1	相手に意識を集中することができたか	1	2	3	4	5					
	沈黙に耐えられたか	1	2	3	4	5					
	相手の身体表現が感じられたか（非言語的コミュニケーション）	1	2	3	4	5					
ステップ2	相手の気持ちを自分の経験で捉えたか	1	2	3	4	5					
	相手の気持ちを分析したか	1	2	3	4	5					
	相手の気持ちに近づいたと感じたか	1	2	3	4	5					
ステップ3	相手の話の確信が理解できたか	1	2	3	4	5					
	相手の話の確信を返すことができたか	1	2	3	4	5					
ステップ4	相手の行動の根拠を吟味できたか	1	2	3	4	5					
	相手の新たな方向性を導くことができたか	1	2	3	4	5					
ステップ5	相手の新たな考えを認めることができたか	1	2	3	4	5					
	相手の具体的な行動が引き出せたか	1	2	3	4	5					